



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

小学校家庭科の整理・整頓および清掃学習に関する  
授業提案：  
探究的な活動および領域横断的な視点を取り入れた  
授業による効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学教育実践研究推進本部 公開日: 2024-01-04 キーワード (Ja): 家庭科, 住生活, 快適性, 領域横断, 探究的学習, 査読付き論文, ETYP:教育実践, SSUB:家庭科 キーワード (En): Home economics, Housing, Comfort, Cross-disciplinary, Inquiry-based learning, Peer Reviewed Article 作成者: 萬羽, 郁子, 藤田, 智子, 西岡, 里奈, 倉持, 清美, 渡瀬, 典子 メールアドレス: 所属: 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学附属小学校, 東京学芸大学, 東京学芸大学
URL	<a href="https://doi.org/10.50889/0002000176">https://doi.org/10.50889/0002000176</a>

小学校家庭科の整理・整頓および清掃学習に関する授業提案  
—— 探究的な活動および領域横断的な視点を取り入れた授業による効果 ——

Proposal for a Lesson on Organizing, Setting in Order,  
and Cleaning in the Home Economics Course at Elementary School:  
Effectiveness of the Class Incorporating Exploratory Activities and Cross-Disciplinary Perspectives

萬羽 郁子\*<sup>1</sup>・藤田 智子\*<sup>2</sup>・西岡 里奈\*<sup>3</sup>・倉持 清美\*<sup>4</sup>・渡瀬 典子\*<sup>2</sup>  
BAMBA Ikuko, FUJITA Tomoko, NISHIOKA Rina,  
KURAMOCHI Kiyomi and WATASE Noriko

生活科学分野  
*Human Life Studies*

(掲載決定日：2023年9月29日)  
(Publication decision date; September 29, 2023)

要 旨

本研究では、小学校家庭科の内容B住生活における整理・整頓や清掃に関する授業提案を行った。「快適空間スペシャリストへの道」として児童が「快適な住まい」について考え、自らの設定した課題に対して整理・整頓や清掃を実践する探究的な学習を行うこととした。また、住生活の学習に、家族や他者の視点、環境への配慮などの視点を取り入れた領域横断的な学習の効果についても検証することとした。

授業前後に実施したアンケート調査の結果、ワークシートの分析結果より、探究的な活動を通して、知識・技能が身に付くとともに、自分自身でこれまでの整理・整頓や清掃の仕方を見直すなど批判的思考力が育まれるとともに、より良い方法を追究する学びの意欲が高まったことが考えられた。また、領域横断的な学習の効果について、内容A「家族・家庭生活」との関連づけによって、自分の身の回りに留まることなく地域等を含めた住環境の改善に関する実践度や実践への意欲を高めること、他者との快適性の違いなどを理解することで他者に配慮し、共感・受容する力が育成される可能性が示唆された。内容C「消費生活・環境」との関連づけによる効果は、ポートフォリオシートの記述で環境への配慮や意識についての記述が増えていたものの、授業開始前から比較的意識が高かったこともあり、アンケート調査の結果については大きな変化はみられなかった。今後さらに検討していきたいと考える。

キーワード：家庭科，住生活，快適性，領域横断，探究的学習

---

\*1 東京学芸大学 生活科学講座 生活科学分野  
\*2 東京学芸大学 生活科学講座 家庭科教育学分野  
\*3 東京学芸大学 大学院連合学校 教育学研究科院生・東京学芸大学附属小学校  
\*4 東京学芸大学 教育実践創成講座

## Abstract

In this study, we proposed a lesson on tidying and cleaning in housing for elementary school home economics. The students will think about a "comfortable home" as a "path to becoming a comfortable space specialist," and will learn through exploratory learning by practicing organization and cleaning in response to a task they set for themselves. We also decided to verify the effectiveness of cross-disciplinary learning that incorporates the perspectives of family members, others, and the environment into the study of living.

The results of the questionnaire survey and worksheet analysis conducted before and after the class indicated that the students acquired knowledge and skills through exploratory activities, developed critical thinking skills by reviewing their own methods of tidying and cleaning, and increased their motivation to pursue better methods of learning. The results of the study also showed that the students were motivated to pursue better ways of doing things. In addition, the association with "family and home life" may increase the level of practice and motivation to improve the living environment, not only in one's own neighborhood but also in the local community, as well as the ability to care for, empathize with, and accept others by understanding the differences in comfort between oneself and others. The results suggest the possibility of developing the ability to care for and sympathize with others by understanding the differences in comfort with others. As for the effect of the association with "Consumer Life and Environment," although there was an increase in the number of statements on the portfolio sheet regarding environmental considerations and awareness, there was no significant change in the results of the questionnaire survey, partly because the students were relatively aware of the issue before the class started. We will consider this issue further in the future.

**Keywords:** Home economics, Housing, Comfort, Cross-disciplinary, Inquiry-based learning

### 1. はじめに

整理・整頓や清掃は、児童にとって身近な環境整備の一つであり、小学生から高校生までを対象としたお手伝いの実態調査<sup>1)</sup>では、家の中の掃除や整頓の手伝いを「いつもしている」または「時々している」と回答した割合は約7割で、食器の準備や後片付け、買い物のお手伝いに次いで多いことが報告されている。一方で、児童・生徒からみた学校における掃除の状況についての調査<sup>2)</sup>では、学校の掃除を好きかという問いに対して「掃除が好きな方」16%、「好きではないが、嫌いというほどでもない」66%、「掃除が嫌いな方」18%、家の掃除を好きかという問いに対して「掃除が好きな方」7%、「好きではないが、嫌いというほどでもない」53%、「掃除が嫌いな方」40%と回答しており、掃除を好きと感じている児童・生徒が少ないことが分かる。

小学校では整理・整頓や清掃について、特別活動（学校清掃）や生活科とともに、家庭科の内容B住生活においても学習する。家庭科では、A家族・家庭生活、B衣食住の生活、C消費生活・環境について学習し、生活に関わる幅広い内容を扱うが、小学生を対象とした意識調査<sup>3)</sup>では、家庭科の学習で楽しい分野（複数回答）として「食物」が最も多く、「衣服」「お金の使い方」「環境」「家族との生活」の順に続き、「住まい」は最も少なかったことが報告されている。同調査では、学習内容で日頃の生活の役に立っていること（複数回答）や住まい学習で楽しい内容（複数回答）として「整理整とんの工夫」と「掃除の工夫」が多く挙げられていたがその選択割合は3～4割に留まっており、楽しくない内容（複数回答）においても掃除の学習に関係する「汚れ調べ」が最も多く、「住まい方の工夫」「掃除の工夫」も3～4割程度であった。また、小学校教員を対象とした調査<sup>4)</sup>においても、教員自身が家庭科で興味のある分野としても「住居」は最も少なく、教員からみた小学生の関心としても「住居」は低く、住まいの学習内容の中で関心が高い・低い内容（複数回答）の両方で「汚れ調べ」「整理整とんの工夫」「清掃の工夫」は上位に挙げられていた。このことから、整理・整頓や掃除に関する学習は児童にとって日頃の生活の役に立っていると感じられているものの、興味関心にばらつきが多いことが考えられる。さらに、小学校教員は、住居分野の指導で困ることとして、「活用しやすい教材の不足」「実習や演習を取り入れにくい」「子どもの関心が低い」を多く挙げており<sup>4)</sup>、子どもたちが関心を持てるよう

な教材や授業方法の提案が求められている。

現在、家庭科の内容B住生活における整理・整頓や清掃の学習は小学校家庭科教科書にも記載されているように、学校や家庭において、①日頃の整理・整頓や清掃の仕方を見直し、②整理・整頓や掃除の計画を立てる、③計画に沿って整理・整頓や掃除を実践する、という流れで行われることが多い。自ら考えて計画し、実践するという展開になっているものの、既に述べてきたとおり、整理・整頓や清掃を好きと考える児童は少なく、児童によっては興味関心を持って活動しにくいテーマである。また、主体的でより深い学びを実現するためには、児童がそれぞれ興味関心を持ったことについて自ら課題を追究し、課題解決を行うような探究的な学習方法の提案が必要と考えられる。そこで、本研究では、小学校家庭科の内容B住生活における整理・整頓や清掃の学習に関して、児童が自ら課題を追究し、課題解決を行うような探究的な学習方法の提案、授業実践を行い、その効果を検証することとした。

## 2. 小学校学習指導要領解説家庭編における整理・整頓や清掃学習についての記述内容の整理

授業提案に向け、昭和33年～平成29年告示の小学校学習指導要領解説家庭編の内容の変遷を整理し、整理・整頓および清掃学習の意義や指導上の工夫について考えることとした。表1は、小学校学習指導要領解説家庭編における住まいの整理・整頓や清掃に関する内容の変遷と整理・整頓や清掃の目的に関する記述を整理したものである。内容について、昭和33年および昭和43年告示では清掃や整理・整頓の「正しいしかた」という言葉が出て来ており、正しい方法や技術を身に付けることに重点が置かれていることが分かる。次に昭和52年告示と平成元年告示では、「適切にでき」「適切な仕方」と「気持ちのよい住まい方」の両方が明記され、平成10年告示以降は、「快適な住まい方」の一つの方法として整理・整頓や清掃の「仕方」が挙げられている。また、整理・整頓や清掃の目的に関する記述をみても、昭和33年告示および昭和43年告示では、「衛生上」と「精神上」、昭和52年告示と平成元年告示では「清潔で」「気持ちのよい」といった両面からの意義が記述されていたが、平成10年告示以降は「気持ちよく」生活するためということに重点が置かれており、経済成長等にもない衛生面での問題が少なくなってきたことや社会全体としての衛生意識の高まりが影響していることが考えられる。また、家族・家庭生活と住生活の統合的な領域構成であった昭和52年告示、平成元年告示では「家族が清潔で気持ちよい」と家族という言葉が強調され、平成20年告示でも「家族らしい」「家族が楽しく快適に過ごせる」といった記述がみられた。さらに、平成10年告示以降、「なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考えさせる」といった記述があり、家庭科住生活における整理・整頓や清掃の学習では技術を身に付けるだけではなく、清掃をする意義や目的を理解することも重視されており、意義や目的を理解することは日々の生活での整理・整頓や清掃の取り組みに繋がっていくと考えられる。

表2は、小学校学習指導要領解説家庭編の整理・整頓および清掃の内容において、他領域等との関連性が言及されていた場合にその領域名等を抽出したものである。平成元年告示以前は、整理・整頓や清掃の内容については他領域との関連性についての言及がなかったが、平成10年告示以降、家族・家庭生活領域との関連性について示されている。平成10年告示と平成20年告示では消費生活・環境領域との関連性が示されていた。平成29年告示では中学校の学習との関連性が初めて示され、系統的な学習の重要性が増しているためと考えられる。

表3に、小学校学習指導要領解説家庭編にみる整理・整頓および清掃の学習と家族・家庭生活領域との関連性を持たせる意義をまとめた。学習指導要領解説には、家庭で実践する喜びを感じ家族の役に立っていることを感じるといった「自信・意欲を高める」という意義と、家庭での様々な工夫を発表し合うなどの「多様な住まい方の工夫の理解」について示されている。そもそも住まいは、家庭生活の器とも表現されるように、家族生活や調理、衣服や家財の管理などを行う場所であり、家庭科で学習するすべての領域・内容は家庭生活を中心に関係し合っていることから、授業において他領域との関連について意識する場面は多いと考えられる。

また、表4に現行の小学校学習指導要領解説家庭編（平成29年告示）における整理・整頓や清掃に関わる学習内容と、他領域との関連性についての記述内容を示す。整理・整頓や清掃については、既に述べてきたとおり主に、内容B衣食住の生活の「(6) 快適な住まい方」(住生活に関する項目)で取り上げられるが、内容A家族・家庭生活では「衣食住に関わる仕事」と、内容C消費生活・環境では「ごみの分別や減量の仕方」との

表1 小学校学習指導要領解説家庭編における住まいの整理・整頓や清掃に関する内容と目的に関する記述の変遷

	学習指導要領における住まいの整理・整頓や清掃に関する内容	整理・整頓（整）や清掃（清）の目的
昭和33年 告示 Cすまい	(1) すまいの清掃の正しいしかたを理解させ、簡単なそうじ用品を作らせ、進んで清掃を実行するようにさせる。 (2) すまいの整理・整とんのしかたを理解させ、実践させるようにする。	整…必要（ <u>気持ちのよさ</u> ， <u>便利で能率のよい</u> ） 清…必要性（ <u>衛生上</u> ， <u>精神上</u> ）
昭和43年 告示 Cすまい	(1) すまいの清掃の正しいしかたを理解させ、簡単なそうじ用品を作らせ、進んで清掃を実行するようにさせる。 (2) すまいの整理・整とんのしかたを理解させ、実践させるようにする。	整・清…必要性（ <u>衛生上</u> ， <u>精神上</u> ）
昭和52年 告示 C住居と家族	(1) 自分の持ち物の整理・整とん，床，窓などの清掃，清掃用具の取扱い及びごみの処理が適切にでき、 <u>気持ちのよい住まい方</u> を工夫することができるようにする。	整・清…家族が清潔で <u>気持ちのよい住まい方</u> ができるよう
平成元年 告示 C家族の生活と住居	(2) 身の回りの整理・整とんや清掃の適切な仕方が分かり、 <u>気持ちよく住む</u> ことができるようにする。 (3) 身の回りの品物について活用の仕方が分かり、不用品やごみを適切に処理できるようにする。	整・清…家族が清潔で <u>気持ちよく生活</u> することができるよう 整…仕事が能率的に安全にできる
平成10年 告示 (6) 住まい方への関心	(6) 住まい方に関心をもって、身の回りを <u>快適に整える</u> ことができるようにする。 ア 整理・整とんや清掃を工夫すること。	整・清… <u>気持ちよく生活</u> するため 清…何のために
平成20年 告示 C快適な衣服と住まい	(2) <u>快適な住まい方</u> について、次の事項を指導する。 (イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。	整・清… <u>気持ちよく生活</u> できる 整…家族らしい住まい方 清…家族が楽しく快適に過ごせる、なぜ汚れるのか、何のために清掃するのか
平成29年 告示 B衣食住の生活	(6) <u>快適な住まい方</u> ア (イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。 イ …整理・整頓や清掃の仕方を考え、 <u>快適な住まい方</u> を工夫すること。	整・清… <u>気持ちよく生活</u> するため 清…なぜ汚れるのか、何のために清掃するのか

表2 小学校学習指導要領解説家庭編の整理・整頓および清掃の学習と他領域等との関連性

平成10年告示 (6) 住まい方への関心	(1) 家庭生活と家族 (7) 物と金銭の使い方と買い物 (8) 家庭生活の工夫
平成20年告示 C快適な衣服と住まい	A 家庭生活と家族 D 身近な消費生活と環境
平成29年告示 B衣食住の生活	A 家族・家庭生活 中学校（安全な住まい方）

表3 小学校学習指導要領解説家庭編にみる整理・整頓および清掃の学習と家族・家庭生活領域との関連性を持たせる意義

<p>自信・意欲を高める</p>	<p>家庭での清掃の経験をもとに、そこを使う家族の気持ちを想像したり、協力して清掃をした感想をきいたりするような学習も考えられる。<u>家族と共に<u>行う喜びや清掃後の気持ちよさ、家族に役立っていること</u>を感じながら学習を進めるようにする。</u>(平成10年告示)</p> <p>整理・整頓や清掃を家庭で分担できる仕事や家族への協力につなげて実践させたりすることも考えられる。…家庭での清掃の経験をもとに、そこを使う家族の気持ちを想像したり、協力して清掃をした感想を聞いたりするなど、<u>実践する喜びや家族とのかかわりを感じながら学習を進めることも考えられる。</u>(平成20年告示)</p> <p>家族の生活に合わせて整理・整頓の仕方を工夫し、清掃などを適切にすることによって、<u>家族が<u>楽しく快適に過ごすことができることに気付く</u>ようにする。</u>また、A(2)「家庭生活と仕事」のイの学習との関連を図り、<u>実践する喜びや家族との関わりを感じながら学習を進めるように配慮する。</u>(平成29年告示)</p>
<p>多様な住まい方の工夫の理解</p>	<p>家族が共通して使う洗面所や玄関などを想定して工夫することや、家庭での<u>様々な収納の工夫を</u>発表し合う活動なども考えられる。(平成20年告示)</p> <p><u>整理・整頓や清掃の仕方は家庭によって異なることから、児童の家庭での様々な工夫について交流する活動を通して、指導事項イにおける活動に生かすことができるよう配慮する。</u>(平成29年告示)</p>

表4 小学校学習指導要領解説家庭編(平成29年告示)における整理・整頓や清掃に関わる学習内容と、他領域等との関連性

内容	他領域との関連
<p>A 家族・家庭生活 (2) 家庭生活と仕事 ア 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解すること。 イ 家庭の仕事の計画を考え、工夫すること。</p>	<p>「B衣食住の生活」の…、(6)の住生活に関する学習内容との連携を図り、<u>衣食住に関わる仕事</u>を実践し、家族に協力しようとする意欲を高めることが考えられる。</p>
<p>B 衣食住の生活 (6) 快適な住まい方 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (イ) <u>住まいの整理・整頓や清掃の仕方</u>を理解し、適切にできること。 イ 季節の変化に合わせた住まい方、<u>整理・整頓や清掃の仕方</u>を考え、適切な住まい方を工夫すること。</p>	<p>A(2)「家庭生活と仕事」のイと関連させて、整理・整頓や清掃を実践したりすることなどが考えられる。</p>
<p>C 消費生活・環境 (2) 環境に配慮した生活 ア 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。 イ 環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること。</p>	<p>B(6)「快適な住まい方」の整理・整頓や清掃の学習と関連させて、<u>ごみの分別や減量の仕方</u>を工夫したりすることなども考えられる。</p>

関連性についてそれぞれ言及されている。このことから、整理・整頓や清掃は、内容A～Cの全てに関わる横断的な学習内容であると言える。しかし、領域横断的な学習の意義や効果について詳細に検討した研究報告はほとんどみられない。

以上のことを参考に、本研究では、「快適空間づくり」をテーマに児童が探究的に整理・整頓や清掃について学習する授業を提案することとし、現行の小学校学習指導要領解説家庭編(平成29年告示)における内容B衣食住の生活「(6) 快適な住まい方」に、家族や他者の視点、環境への配慮などA家族・家庭生活、C消費生活・環境の視点を取り入れ、領域横断的な授業の効果についても検討することとした。

### 3. 授業実践と調査・分析方法

#### (1) 調査概要

調査対象：東京都内の国立大附属小学校6年生3クラス102名

授業の概要：2021年10～11月

「快適な住まい方」を考える全10時間（2時間×5回）の授業を実施

調査方法・時期：

①アンケート調査…第1時の授業前と第10時の授業の終わりに、Microsoft Formsを用いた質問紙調査を実施した。授業時に家庭科教員が調査フォームへのリンクと、授業時及び休み時間に回答するように伝えた。調査項目は、整理・整頓や清掃（掃除）に関する生活実態（9項目）、知識・技能・態度（11項目）、意識（11項目）、思考力や人間性等（13項目）について、4件法で尋ねた。授業前と授業後の結果について、SPSSを用いて対応のあるt検定を行い比較した。

②児童の記述したワークシート…題材全体を通して使用したポートフォリオシートの記述内容について、KH-Coderを用いて計量テキスト分析を行った。

なお、本研究は、東京学芸大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

## （2）学習計画と用いた手立て

題材名は「快適空間スペシャリストへの道」で、学習計画は表5に示すとおりである。本題材では「快適空間スペシャリスト」を目指し、各自が「快適空間」とはどのような場所なのか考え、学校や家庭で課題をみつけ快適空間づくりに挑戦する探究的な学習となっている。そのときの環境や空間について「快適」「不快」と感じたことのある児童は多いと考えられるが、どのような時に「快適」と感じるか、「快適空間」に求める条件は、人によって異なるものである。そのため、題材全体を通して、「快適」な住まいや住まい方を追求することとし、授業中の様々な場面で家族の意見や環境への配慮など多面的な見方によって「快適」についての考えを深めていくこととした。また、「スペシャリスト」としたのは、授業を行った6年生は日頃から学校清掃等でリーダーとして役割を担う立場であり、普段の整理・整頓や清掃の方法を見直し知識・技術を高めるとともに、自分にとっての「快適」だけでなく他者や環境にも配慮することができるように、児童自身が意欲を持って現状よりもステップアップできるように考えたためである。

この「快適」についての考えの変化を意識化するため、OPP（One Page Portfolio）シート<sup>5)</sup>を参考に、図1に示すように一枚の用紙を用いて、題材名、授業前後の本質的な問い（本研究では「快適な住まいとは」とした、1時間目と10時間目にそれぞれ記入）、学習履歴（10段階評価、快適空間スペシャリストになるために考えたこと、2・4・6・8・10時間目の授業終了時に記入）、学習後の自己評価（振り返り、10時間目に記入）を含むポートフォリオシートを作成した。

第1次では、ポートフォリオシートの授業前の本質的な問い（「快適な住まいとは」）を記入した後、4人班がそれぞれ異なる絵本を読むこととし、席を移動して担当の絵本を読んだ後、そこから考えた「快適な住まい」

表5 題材のねらいと学習計画

題材名：快適空間スペシャリストへの道		
題材のねらい：「快適な住まい」になるように整理・整頓や清掃の仕方について工夫し、他者や環境にも配慮して実践できるようにする。		
次	学習内容	時数
1	快適な住まいとは どんどころだろう ・以下の4つの絵本を提示した上で、快適な住まいについて考え、出てきたキーワードを付箋に記入しKJ法でまとめる。 ①「こんな家にすんでたら 世界の家の絵本」 ②「あなたのいえ わたしのいえ」 ③「おんぶは こりごり」 ④「バーバパパのいえさがし」	2
2	快適空間スペシャリストに向けて ・快適な住まいやそのために行っていることについて家族にインタビューする。インタビューを通して自分と他者の考えを比較し、「快適空間スペシャリスト」の要素を考える。	1
3	快適空間スペシャリストになろう ・「快適空間スペシャリスト」として取り組んでみたいことを考え、計画を立てる。また、実践活動を行い、その結果をまとめたポスターを作成する。	5
4	快適空間にするためのポイントを考えよう ・作成したポスターを用いて発表会をし、快適空間にするためのポイントを整理する。	2

のキーワードを付箋に書いた。その後、各自が書いた付箋を班に戻りそれぞれが読んだ本の内容を紹介しながら、「快適な住まい」のキーワードが書かれた付箋を出していき、班の全員が書いた付箋を模造紙上に並べてKJ法により整理した。また、教室全体で「快適な住まい」のキーワードについて確認した。

第1次と第2次の間に、家族へのインタビューを実施した。インタビュー項目は、「快適と感じる住まいとは」「そのために取り組んでいることや工夫」「住まいで困っていることや、もっと快適にしたいこと」で、ワークシートに予め自分の考えを書いた上で、家族にもインタビューまたは記入をしてもらった。

第2次では、家族へのインタビューの結果を班や教室全体で共有し、「家族にとって快適な住まい」について考えた。また、第3次以降「快適空間スペシャリスト」を目指して実践に取り組む予定であることを伝え、「快適空間スペシャリストとは」どういうものだと思うかについて話し合った。「快適空間スペシャリスト」を目指す上で、整理・整頓や掃除についての知識・技術を高める必要があるとともに、自分以外の人への快適や環境にも配慮する必要性を意識化した。そして、「快適空間スペシャリスト」として、学校や家庭において「快適な空間づくり」として取り組んでみたいことを考えた。

第3次では、前回立てた計画に基づき、「快適空間スペシャリスト」としての実践を行うとともに、その成果についてタブレットを用いてパワーポイントによるポスターとしてまとめた。ポスターには、取り組みを行った場所、その場所を使用している人、解決したい課題、どのような快適空間にしたいか、成果（どのような点が改善されたか、どのような良いことがあったか）、具体的な実践の内容、使っている人やまわりの人の感想や意見、快適空間スペシャリストとして工夫したことや気づき、などをまとめた。

第4次では、ポスター発表形式で各自の実践について発表会を行った。発表後、各班で「快適空間スペシャリスト」として快適空間にするためのポイントについて考え、模造紙にまとめた。

**学習後**

快適な住まいとは



学習をふり返って




**快適空間  
スペシャリスト  
への道**



組 番 \_\_\_\_\_

**学習前**

快適な住まいとは



**快適空間スペシャリストへの道** 組 番 \_\_\_\_\_

	① 月 日	② 月 日	③ 月 日	④ 月 日	⑤ 月 日
10					
9					
8					
7					
6					
5					
4					
3					
2					
1					

授業時間外					

図1 1枚ポートフォリオ（OPPシート）を参考に作成した「快適空間スペシャリストへの道」ワークシート

#### 4. 結果と考察

##### (1) 授業前後のアンケートの比較

事前・事後アンケートの両方に回答があった有効回答数は98件であった。図2に整理・整頓や清掃（掃除）に関する知識・技能・態度の変化を示す。事前調査の結果より、全体的に平均得点は3程度と高い項目が多かったが、「周りに迷わくにならないように、整理整とんやそうじをする」「家族の意見を聞いて整理整とんやそうじをする」「みんなで使う場所を自分から整理整とんやそうじをする」「よごれたらすぐにそうじをする」は他に比べてやや低い傾向がみられた。事前・事後の比較より、「手順を考えて整理整とんやそうじをする」「適切な道具か考えてそうじをする」「よごれの種類にあったそうじの仕方をする」といった掃除の知識・技能に関する項目と、「周りに迷わくにならないように、整理整とんやそうじをする」「家族の意見を聞いて整理整とんやそうじをする」「みんなで使う場所を自分から整理整とんやそうじをする」といったその場所を共に使用する他の人への配慮に関する項目で有意に得点が上昇していた ( $p<.05$ ,  $.01$ ,  $.001$ )。「洗ざいをたくさん使ってきたきれいにする」「よごれたらすぐにそうじをする」はほとんど変化がなかったが、その他の項目についても全体的に事前に比べて事後の平均得点は高くなっていった。

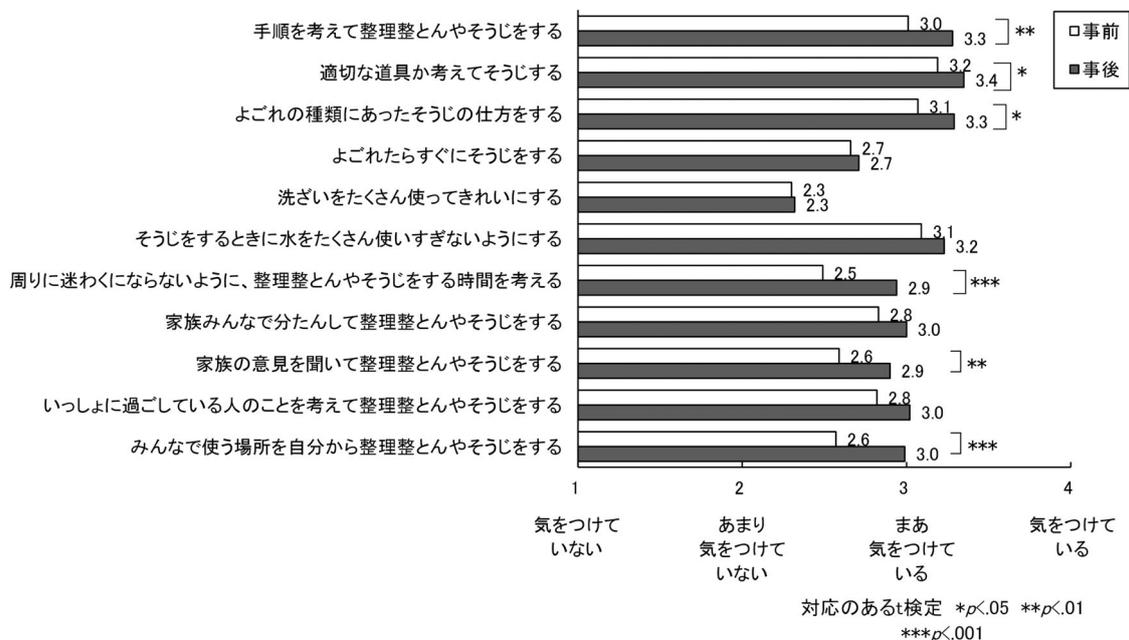


図2 整理・整頓や清掃（掃除）に関する知識・技能・態度の変化

図3に整理・整頓や清掃（掃除）に関する意識の変化を示す。事前調査の結果より、「整理整とんやそうじをすると気持ちいい」「物は最後まで大切に使う」は授業開始前から得点が高かった。事前・事後の比較より、「自分が整理整とんやそうじをしなくても、家族のだれかがやってくれるのでこまらない」の得点が有意に低下し ( $p<.05$ )、家族へ任せきりにすることなく自分でもできることとして意識が持たれたことが考えられる。また、「アレルギーを起こさないように整理整とんやそうじをすることは大切だ」の得点は有意に上昇しており ( $p<.001$ )、整理・整頓や清掃の目的として健康への影響についての意識が高まっていた。「整理整とんやそうじをするのは面倒なのでやりたくない」といったネガティブな気持ちが下がり、「洗剤や水をたくさん使った方がきれいになる」「ぞうきんより使いすてのおそうじシートを使って手軽にそうじをすませたい」の平均得点がわずかに低下するなど環境への配慮の意識が高まった様子が見られたが、事前調査で平均得点が最も高かった「物は最後まで大切に使う」は若干低下していた。その他の項目は事前に比べて事後の平均得点がわずかに上昇していた。

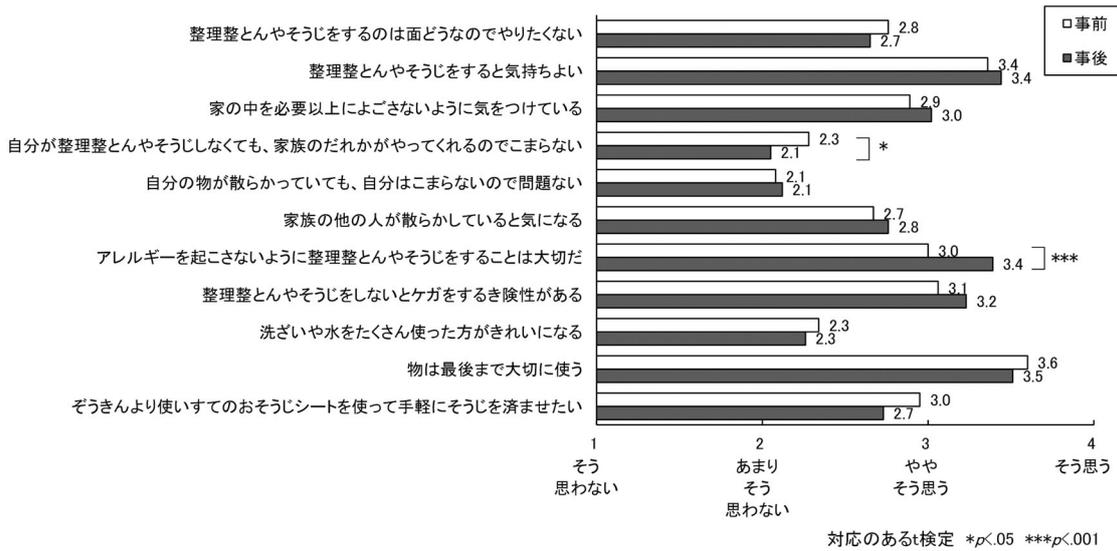


図3 整理・整頓や清掃（掃除）に関する意識の変化

図4に整理・整頓や清掃（掃除）に関する思考力や人間性等の変化を示す。事前調査の結果より、いずれも平均得点は3程度と高い結果であったが、事前・事後の比較によって「今の整理整頓やそうじの仕方が、適切かどうかを考えることができる」「整理整頓やそうじがなぜ必要なのか、自分の考えとその理由を説明することができる」「家族の意見をよく聞いて、協力しながら取り組むことができる」「家族の意見や考えが自分とちがっていたとしても『そういう考えや気持ちもわかる』として受け入れようと思う」「自分が何かをやったとき、まわりの人がどのような気持ちになるかを考えたいと思う」の得点が有意に上昇していた ( $p<.05$ )。また、その他の項目もすべて事前に比べて事後で平均得点がわずかに上昇していた。

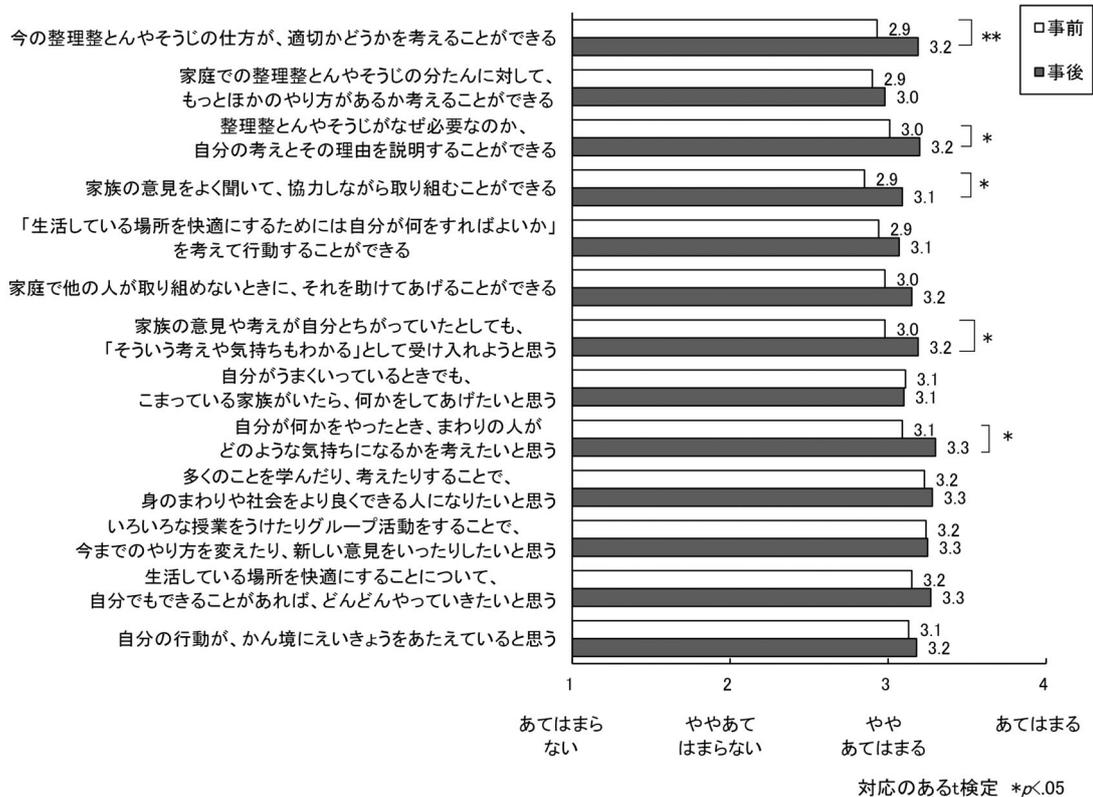


図4 整理・整頓や清掃（掃除）に関する思考力や人間性等の変化

図5に整理・整頓や清掃（掃除）に関する生活実態の変化を示す。事前の結果より、「自分のよくいる場所を整理整頓やそうじする」「食事をする場所やリビングなどの整理整頓やそうじをする」「地いきのルール通りにごみの分別をする」は実施得点の平均が3前後となっており、自宅でごみの分別、リビングや自分のよくいる場所の掃除は行われていたが、「地いき清そう活動に参加する」「道や公園などのゴミを拾ったりそうじをしたりする」「家の周りの道路などをそうじする」といった家の外や地域の掃除や「トイレそうじをする」はあまり行われていなかった。事前・事後の比較より、事前であまり行われていなかった「地いき清そう活動に参加する」「道や公園などのゴミを拾ったりそうじをしたりする」「家の周りの道路などをそうじする」の実施得点が有意に上昇していた（ $p<.05$ ,  $.01$ ）。その他の項目についても「食事をする場所やリビングなどの整理整頓やそうじをする」はわずかに低下していたものの、ほとんどの項目で事前に比べて事後の平均得点がわずかに高くなっていた。

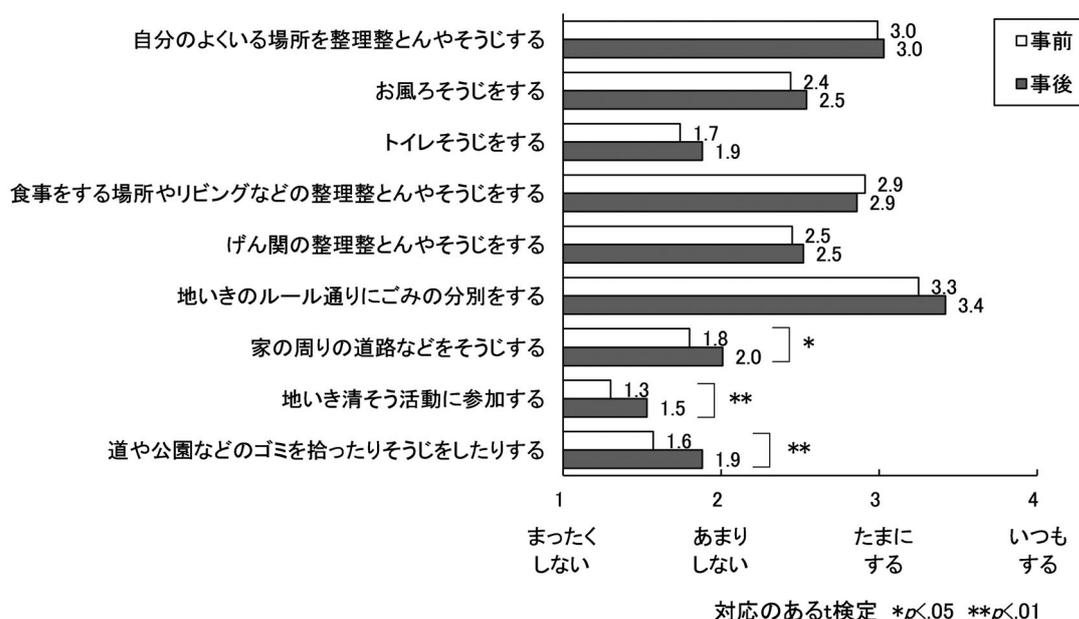


図5 整理・整頓や清掃（掃除）に関する生活実態の変化

## (2) 児童の記述したワークシートの分析

題材全体を通して使用したポートフォリオシートの記述分析を行った。表6に、毎回の授業時に記載した快適スペシャリストへの到達度（10段階評価、平均±標準偏差）と、快適スペシャリストになるために授業を通して考えたことの字数（平均±標準偏差）、名詞・サ変名詞・形容動詞の出現回数が多かった抽出語（上位5個）を示す。毎時間、到達度は上昇し、1～8時間目までは各回で平均1.3～1.4段階、9・10時間目には1.9段階上昇していた。発表会をし、快適空間にするためのポイントを整理した9・10時間目の上昇度が大きいことが分かる。また、考えたことの記述量も少しずつ増えていた。出現回数の多かった抽出語について、名詞については、いずれも「自分」が上位に入っているが、1・2時間目は「自分にとってどのような事が快適なのかなどを考えました」など自分ごととして快適空間を捉えるとともに、3・4時間目、9・10時間目は「快適な空間というのは、自分だけでなくまわりの人も快適な空間」など、自分以外の他者への配慮について言及するために使われていた。5～8時間目は「自分の部屋」など、実践として取り組む場所について述べられていた。また、1～4時間目までは「家族」も上位になっており、絵本を通して家族との協力や家族と暮らす住まいについて考えたこと、家族へのインタビューによって、家族のことを強く意識したことがうかがえる。サ変動詞については、「整理」「整とん」「工夫」「利用」「発表」など自身が取り組んでみたいことや授業内容に関することが上位になっているが、1～4時間目では「リラックス」「安心」などが多くみられ、快適な住まいについて考えたときに意識したことであり、これらが5時間目以降の実践の計画等に影響していることが考えられる。形容動詞は「快適」「安全」「きれい」など快適空間の条件や「大事」「大切」「必要」などが上位と

なっており、「きれいな時間を長く保つことが大事」「他者や環境などを考えてやっていく必要がある」といった快適空間を手に入れるために必要だと思ったことが挙げられていた。

表6 ポートフォリオシートにおける快適スペシャリストへの到達度と授業を通して考えたことの変化

		1・2時間目		3・4時間目		5・6時間目		7・8時間目		9・10時間目	
到達度 (10段階評価) Avg ± SD		3.6 ± 2.2		5.0 ± 2.0		6.4 ± 1.7		7.7 ± 1.5		9.6 ± 1.1	
字数 Avg ± SD		57.6 ± 28.5		64.4 ± 24.6		67.7 ± 27.0		75.3 ± 27.5		78.5 ± 33.4	
		抽出語	出現回数								
名詞	1	自分	23	空間	32	自分	15	ポスター	25	自分	28
	2	空間	18	自分	26	空間	14	自分	17	空間	24
	3	家族	14	スペシャリスト	25	ロッカー	8	環境	9	ポイント	18
	4	住まい	9	家族	16	環境	8	空間	9	場所	18
	5	環境	8	部屋	11	種類	7	スポンジ	8	環境	16
サ変名詞	1	整理	13	整理	15	整理	20	整理	19	発表	30
	2	生活	10	整とん	9	整とん	8	意見	9	意見	14
	3	整とん	9	工夫	6	工夫	7	工夫	5	工夫	13
	4	リラックス	7	安心	4	利用	4	意識	4	整理	13
	5	安心	6	生活	3	プリント	3	授業	4	共通	7
形容動詞	1	快適	39	快適	58	きれい	38	きれい	37	快適	29
	2	安全	9	きれい	23	快適	20	快適	13	きれい	20
	3	必要	8	大切	15	大事	5	色々	3	大切	15
	4	大切	7	必要	8	大切	5	大事	3	大事	7
	5	きれい	6	大事	6	必要	5	こまめ	2	こまめ	6

また、表7にはポートフォリオシートにおける学習履歴の変化の例として児童Aの記述を示す。児童Aは、3・4時間目（第2次）の家族のインタビューや5～8時間目（第3次）の実践の際に他の人の意見も聞いて整理したこと、9・10時間目（第4次）での発表会などを通して、他者との関わりを意識しながら「快適空間スペシャリスト」の道をステップアップしている様子がみられた。

表7 ポートフォリオシートにおける学習履歴の変化（児童Aの記述）

		1・2時間目	3・4時間目	5・6時間目	7・8時間目	9・10時間目
評価		3	3.5	6	8	9
考えたこと		快適になるために、私はそうじをしたり風とおしをよくしたりする。今からでもできそうなことを少しずつやっていくといいと思いました。	家族にインタビューしてみた、自分と家族では快適というかち感にはちがいがあることがわかりました。教室をわいてきにするのも工夫をしたいと思います。	家の勉強机の上が塾の教材がのっけてきたなく、リビングがきたなく見えてしまっているの、家族の意見も聞きながら片づけたいです。	自分が使いやすいことばかりを考えて整理していたけれど、他の人の意見もきいて整理してみると自分がやったときよりもいい空間になると思いました。	ほかの人がどういう風に快適空間をつくっていたのかを知ることができてよかったです。自分が知らなかった整理のしかたも知れて今後にかしたいです。

※自身の快適スペシャリストへの道のりを10段階で評価するとともに、快適空間スペシャリストになるために考えたことを2・4・6・8・10時間目の授業終了時に記入した。

さらに、表8に1時間目と10時間目の授業に記入した、授業前後の本質的な問い（本研究では「快適な住まいとは」）への回答ついて、字数（平均±標準偏差）と全児童の回答において出現回数が多かった抽出語と記述例を示す。字数は1時間目に比べて10時間目はわずかに増加し、それぞれの抽出語の出現回数も1時間目よりも10時間目は多くなっていた。1時間目には、「家」「広い」「住まい」「部屋」「温度」が、10時間目には、「使う」「住まい」「人」「きれい」「環境」が上位となっていた。1時間目には、快適な住まいを「家」や「部屋」といった設備の充実を挙げ、5年生までの既習事項である「温度」調節などを快適な住まいと考える児童が多かったが、10時間目には、本授業で実践として取り組んだ「掃除」「整理整頓」や「使う」「人」や「家族」のことを考えること、「環境」への配慮など内容A家族・家庭生活やC消費生活・環境に関連する記述が増えていた。また、記述例をみると、1時間目は快適な住まいの条件を単に羅列する児童が多かったが、10時間目には様々な条件を組み合わせることで説明的に述べられていた。

表8 ポートフォリオシートにおける「快適な住まいとは」に対する記述（1時間目と10時間目の記述の比較）

字数 Avg ± SD	1時間目		10時間目	
	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
	73.6 ± 41.9		88.1 ± 45.5	
1	家	65	使う	84
2	広い	48	住まい	66
3	住まい	47	人	56
4	部屋	37	きれい	50
5	温度	28	環境	47
6	良い	21	自分	40
7	きれい	18	空間	35
8	自分	18	物	35
9	暖かい	18	快適	34
10	涼しい	17	掃除	34
11	安全	16	家	30
12	近い	15	考える	28
13	風呂	15	整理	26
14	夏	13	整とん	19
15	場所	13	良い	19
16	冬	13	保つ	18
17	近く	12	見る	17
18	エアコン	11	清潔	17
19	自然	11	定期	15
20	暖房	11	家族	14

1時間目の記述例  
 ・冬に暖かく、夏に涼しくなる住まい  
 ・換気がされている住まい  
 ・清潔な住まい  
 ・Wi-Fiの環境  
 ・リラックスできる環境  
 ・周りの環境がよい

10時間目の記述例  
 ・こまめに掃除がされていて、環境によい物を使用していて、見た目もきれい、スッキリしていて使いやすい場所だと思う。  
 ・一緒に使っている人の事も考えて、様々な人に合ったようになっている。そして、環境面にも配慮し、心にゆとりが持てるような空間。

### (3) 本授業の成果と課題に関する考察

アンケート調査の結果より、整理・整頓や清掃に関する生活実態については、授業前に比べて授業後には家の周りや道路などの掃除、地域の清掃活動、道や公園などのゴミ拾いや掃除といった地域での取り組みの実践度が有意に上昇していた。地域での取り組みの実践度が上昇した理由として、これらの項目は他の家庭内の取り組みに比べて授業前の実践度が低い項目が多く、授業を通して他者と生活する空間の快適性を意識したことによる効果であり、ゴミ拾いや授業終了時の11月には落ち葉清掃など学校や地域で児童が取り組みやすい活動であったためと考えられる。一方で、家庭での実践度は上昇した項目が多かったものの大きな変化がみられなかったのは、授業前から実践度が比較的高かったことや、授業前の実践度が低かったトイレ掃除については、家庭での子どもの清掃実態を調べた既往研究<sup>6)</sup>より、子どもは自身の部屋などの掃除は行なっているものの、トイレ掃除は子ども自身が行なう機会が少ないことが報告されていることから、子どもの自発的な取り組みに繋がりにくかったことなどが考えられる。ただし、アンケート調査の知識・技能・態度についての結果より、家族や周りの人に配慮して整理・整頓や清掃に取り組むことについて有意に得点が増加していた。また、整理・整頓や清掃に関する意識についても、他人任せにするといった意識が低下し、思考力や人間性においても家族の意見を聞いたり、異なる意見を受け入れたり、自分の行動が周りの人に及ぼす影響についても考えるようになっていた。さらに、ワークシート（ポートフォリオシート）の分析結果からも、授業終了時には「快適な住まいとは」という問いに対して、その場所を使用する他の人や家族に関する記述が増えており、学習履歴の変化からも他者や家族について言及する様子がみられた。

これらは、本授業において、第1次で「快適な住まい」と家族の協力や家族との生活の関わりについて考えるような絵本を提示したこと、第2次で家族へのインタビューをしたことで自分以外の他者にとっての快適についても意識したこと、第3次でその場所を使用する他者の気持ちも考えながら快適空間づくりの実践を行ったこと、実践後他者からの意見や感想をもらったこと、など授業の様々な場面で家族や他者のことを意識していたことによる効果と考える。このことから、表3より、学習指導要領解説では、内容A家族・家庭生活との関連性を持たせる意義としては児童の自信・意欲を高めることや多様な住まい方の工夫を理解することが挙げられていたが、本研究ではこれらに加え、自分の身の回りに留まることなく地域等を含めた住環境の改善に関する実践度や実践への意欲を高めること、他者との快適性の違いなどを理解することで他者に配慮し、共感・受容する力を育成する可能性が示唆された。家族や他者へ配慮するなど意識については上昇したものの、生活実態の取り組みにおいては地域での活動のみが上昇し、家庭での取り組みについての変化が小さかったことに

は、意識が高まっても家庭で実践する機会が少ないことなどの影響も考えられる。家庭での実践の機会を継続的に得るためには家庭の理解や協力が必要不可欠であり、家庭とより一層連携しながら実践・探究的な活動ができるよう、検討していきたい。

また、アンケート調査では、整理・整頓や清掃に関して知識・技能に関する得点とともに、「今の整理整頓やそうじの仕方が、適切かどうかを考えることができる」「整理整頓やそうじがなぜ必要なのか、自分の考えとその理由を説明することができる」などの得点も有意に上昇していた。ポートフォリオシートの記述においても、学校や家庭で自分なりの課題を見つけ、その解決方法を考えながら実践に取り組む様子がみられた。第3次で自身が見つけた課題について工夫の仕方を考え、実践する、探究的な活動を行ったことにより、知識・技能が身に付くとともに、自分自身でこれまでの整理・整頓や清掃の仕方を見直すなど批判的思考力が育まれるとともに、より良い方法を追究する学びの意欲が高まったことが考えられる。

なお、第1次では自然環境との共生や環境への配慮についても考えるきっかけづくりとして絵本を提示したり、「快適環境スペシャリスト」について考える際に他者や環境への配慮についても意識づけをしたが、ポートフォリオシートにおいて環境についての記述はみられたものの、アンケート調査の結果では環境配慮や地球環境への影響についての意識に大きな変化がみられなかった。児童は授業開始時点（事前調査）において既に環境への配慮や意識が比較的高かったため変化が小さかったことなどが考えられるが、内容C消費生活・環境との領域横断的な学習のあり方については今後さらなる工夫を検討したい。

## 5. まとめ

本研究では「快適空間スペシャリストへの道」として児童が「快適な住まい」について考え、自らの設定した課題に対して整理・整頓や清掃など快適空間づくりを実践する、探究的な学習を行うこととした。また、内容B衣食住の生活の「(6) 快適な住まい方」に、家族や他者の視点、環境への配慮などA家族・家庭生活、C消費生活・環境の視点を取り入れた領域横断的な学習の効果についても検証することとした。

授業前後に実施したアンケート調査の結果、ワークシート（ポートフォリオシート）の分析結果より、探究的な活動を通して、知識・技能が身に付くとともに、自分自身でこれまでの整理・整頓や清掃の仕方を見直すなど批判的思考力が育まれるとともに、より良い方法を追究する学びの意欲が高まったことが考えられた。また、領域横断的な学習の効果について、内容A「家族・家庭生活」との関連づけによって、自分の身の回りに留まることなく地域等を含めた住環境の改善に関する実践度や実践への意欲を高めること、他者との快適性の違いなどを理解することで他者に配慮し、共感・受容する力が育成される可能性が示唆された。内容C「消費生活・環境」との関連づけによる効果は、ポートフォリオシートの記述で環境への配慮や意識についての記述が増えていたものの、授業開始前から比較的意识が高かったこともあり、アンケート調査の結果については大きな変化はみられなかった。内容C「消費生活・環境」との領域横断的な学習の効果については、今後さらに検討していきたいと考える。

## 引用文献

- 1) 国立青少年教育振興機構：青少年の体験活動等に関する意識調査（令和元年度調査）報告書，2021 <https://www.niye.go.jp/files/items/6936/File/%E8%87%AA%E7%AB%8B/zentai.pdf>（2023年6月30日閲覧）
- 2) 株式会社ダスキン暮らしの快適化生活研究所：1.児童・生徒からみた学校掃除に関する実態調査，2011 [https://www.duskin.co.jp/torikumi/gakko/research/pdf/research2011\\_01.pdf](https://www.duskin.co.jp/torikumi/gakko/research/pdf/research2011_01.pdf)（2023年6月30日閲覧）
- 3) 正岡さち，高嶋智恵：小学生の住意識と住教育に対する意識，島根大学教育学部紀要（教育科学），44，41-48，2010
- 4) 正岡さち，小谷智恵，亀崎美苗，田中宏子：島根県の小学校家庭科における住教育の実態と課題，島根大学教育学部紀要（教育科学），46，53-60，2012
- 5) 堀哲夫：一枚ポートフォリオ評価OPPA 一枚の用紙の可能性，東洋館出版社，2019
- 6) 萬羽郁子，藤田智子，渡瀬典子，西岡里奈：小学校高学年児童およびその保護者の家庭における掃除と掃除教育の実態，一般社団法人日本家政学会第75回大会研究発表要旨集，92，2023

